

羽匠 新地 婦し乃和

題字 長澤 茂

第9号

発行 横浜市港北区
新羽地区社会福祉協議会
会長 小山 勇吉
編集人 中村 丈之
港北区新羽町1525
☎(541)0869

一人暮らし老人花見の会

四月八日、心配した前夜の雨もあがり、まさに花見日和。女性民生委員六人と新羽町内会の老人福祉推進委員の山内さんのお手伝を得て、新羽民生委員協議会で初めての一人暮らし花見の会を開きました。場所は近い所と言うことで新羽緑道公園。雨を心配して自治会館をお借りしました。出席者は六人でそのうち二人車椅子。家までお迎えに行き、雨あがりの公園の中を初めての事ではらはらしながら桜の木の下を一めぐり……。花

民生委員 高尾 満枝

の下に敷物をと云う事は無理でした。花よりだんごで自治会館へ。中に家から持っていた桜を生けて。抹茶の接待から始まり昼食。弁当だけでは味気ないので、香のもの、汁物、煮物、それにデザート、話はずみ六人の民生委員のチームワークもさること乍ら、運良く隣の部屋で、踊の稽古が始り、昔懐かしい踊りの輪の中に加えてもらい楽しく無事に終わりました。来年度はもっとにぎやかに出来たらと願っています。

明るく挨拶できる新羽っ子

新羽小学校長 菱山 知夫

「子どもは、環境で育つ。」といわれます。緑に囲まれ、明るく整備された学校、そして子どもを愛し、学校教育に深いご理解のあるPTA・地域の方々。この環境があつてこそ、新羽小の子ども達は素直に明るく育っているのだし、痛感しています。

朝、子ども達が登校してくると昇降口で、「おはようございませう。」と、元気なあいさつをしてくれます。さて今日も一日頑張っているという気にさせるとともに、相手の気持ちをなごませてくれます。こう挨拶できるのは、そのま



ま家庭の姿ではないかと思えます。おとうさん、おかあさんは、子どもの鏡です。子どもは親の背中をじつとみつめています。そしてそのま、まねています。

帰りも、「さようなら。」と気軽に声をかけてくれる素直な、人なつこい、明るい元気な新羽小の子どもたち。そんな子ども達を家庭地域、学校ぐるみで心温かく見守り、より健康で、心豊かで、しかもたくましく育ってくれるよう、努力していきたいと思えます。

町会長就任挨拶

(一) 中ノ久保町町内会長 米山 滋

今年は、暦の判断では内外の経済と社会情勢が極めて荒廃する年のようにです。

このような不透明な世相の年に町内会長として就任致しました。地域の組織が整い、諸団体が活躍をされていることに敬服いたしました。顧みれば、無力な私を温かく迎えて下さり感謝いたしております。

明るい街づくりにご協力をお願いします。

(二) 新羽町内会長 桑畑 良雄

町内会の役割は、①仲良しクラブ、②地域発展の政策集団の二面性を持っていると思います。

町内には、十人十色の考えもあり、二つのバランスが基本になるが、いずれにしても、高齢化、核家族化の中で、一人暮らしのお年寄りが多く、相手の身になった思いやりが大切だと思います。

町内仲良く協力し合い明るい、元気な街づくりをしたい。

梅の話

新田地区センター館長

藤巻 わかは

ここ数日雨が降り続き、鶴見川の水位も上がってきました。

センターの庭にも茜色のつつじが咲き、梅の木も、青い実をつけています。

この梅の実をみるにつけ今から五十年前、敗戦の年、苦しみの中で、この梅で命をとりとめた思い出が甦ってきます。

女学校二年の夏、さつま芋と雑炊の毎日、勤労奉仕の連日でした。体力も弱り、毎日の空腹で明日の命をも分らない日々を送っていました。その頃、法定伝染病の赤痢にかかり、夜も眠れない苦しさを味わっていました。一生の中であれほどの苦しさは、二度とないと言っても過言ではありません。薬も注射もなく、寝ているだけでした。母が梅干しの大きなかめから、赤いしそにつけられた梅と梅酢をとり出しました。

「この梅酢は、腸の細菌を殺すかもしれない」と一人ごとを言いながら食器棚からおちよこを出して、真っ赤な梅酢を注ぎ、寝ている私を抱き起こし、真剣な顔で「これを飲めば命が助かるかもしれない、飲んでごらん」その時の私は、食べ物をお口にすることができない位弱っていました。やっとの思いで梅酢を飲みました。朝・昼・晩と鼻をつまんで飲みながら「助かりたい……助かりたい……」の一心でした。二週間たち三週間たつうちに、意識がはつきりして一カ月後には、お腹の痛みも薄らぎはじめました。髪の毛は全部抜け、やっとな歩けるようになりました。「ああ、これでやっとな歩けた。梅酢のおかげ。今も梅の実る時期に思い出します。」

「梅は、私の命の恩人だ……」。今看病した母は、九十才で健在です。

